

令和2年度 第1回 大和郡山市総合教育会議

① 開催日時

令和2年10月15日（木） 午後2時30分～午後3時40分

② 開催場所

大和郡山市役所 4階 404会議室（教育委員会室）

③ 出席者

上田清市長、谷垣康教育長、岩田淳尚教育長職務代理者、牧浦温代教育委員、
菊岡洋之教育委員、大原末子教育委員

以上6名

事務局11名

④ 傍聴人数

0名

⑤ 次第

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 出席者紹介
4. 意見交換
5. 閉会

⑥ 議事

○事務局 皆様、こんにちは。本日は大変お忙しい中、御出席賜りまして誠にありがとうございます。ただいまから令和2年度第1回大和郡山市総合教育会議を開催させていただきます。

私、本日の進行を務めさせていただきます総務部企画政策課の辻井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

最初に、本日会議の趣旨をお示しさせていただきます。平成23年に大津市中2いじめ自殺事件をきっかけに、平成26年の教育委員会制度改革により、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、平成27年度より全ての地方公共団体に総合教育会議の設置が義務化されております。総合教育会議につきましては、地方公共団体において地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的に設置することとなっております

本会議における権限でございますが、主に3つございます。1つ目は、教育行政の大綱の策定に関する事。そして2つ目は、教育を行うための諸条件の整備など、重点的に講ずべき施策に関する事。そして3つ目は、児童・生徒等の生命、身体に現に被害が生じ、またはまさに被害が生ずる恐れがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置に関する事でございます。

例年ですと、2つ目にありました教育を行うための施策等について協議していただいておりますが、今回におきましては本市教育大綱の対象期間が平成28年度から令和2年度までの5年間となっておりますことから、今年度は次期大綱の策定、改定の作業年度となっておりますので、委員の皆様方の意見を広く頂戴し、協議していただくことで、次期大綱の策定、改定に反映させていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、上田市長、御挨拶をお願いいたします。

○上田市長 皆様、こんにちは。

ちょっと音大丈夫ですか。すさまじい光景になってます。今、どんどん工事を進めてくれてるんですが、郡山は地下水位が高くて、もう水との戦いとおっしゃってました。ものすごい水が湧いてくるんですね。これから本格的にまだ掘り進めることになるかと思いますが、こういう状態の中でちょっと新しい庁舎に期待をしながら、今日は総合教育会議ということでお集まりいただきました。

平成27年に教育委員会の仕組みが大きく変わって、1つはそのときに総合教育会議の設置ということが義務化されたんですね。教育大綱の策定であるとか、新しい形の教育長の任命ということになってまいりました。

平成27年5月27日に第1回目の会議をしているんですけども、その当時、私は分かりやすく、心に響く大綱をと。それから、本市の背骨を支えるような大綱にしてほし

いということをお願い申し上げて、今のような形をつくり上げていただきました。幾つかのキーワードをいただいているわけでありまして。シンプルにと申し上げる、その背景にあるのは、教育に対する考え方は本当に千差万別で、いろんな立場の人がいろんなことをおっしゃいますので、そのいろんな考え方を盛り込んでいくと膨大なものになってしまうということで、その根幹の流れの本当に基本的なところをシンプルに打ち出すことが大事じゃないかなということ、当時の委員の皆さんの中でも話し合いをした結果でもあります。

いいところ取りをすると、落語の寿限無寿限無のような縁起の良い名前を並べて寿限無寿限無という長い名前になった、あれはよく議会で議論になるんですけども、よくこの市ではこういうことしてるからやったらどうや、あそこの市ではこういうことやってるから、というのはよくあることで、それを全部集めていったら、理想的な市ができるかということ、恐らくどこかでバランスが崩れてしまうので、いいところ取りだけではなくて、郡山として大事にしたいことは何かということを是非いただければと思っています。

そのことと併せて、実は議会の中でパブリックコメントを求めたらどうかという話があるのですが、ただこれを出して、さっき申し上げたようにいろんな意見が出てしまうと、恐らく收拾がつかなくなるのじゃないかなと、細かい施策についてはいろんな意見をどんどん入れたらいいと思うけど、少しそれにはそぐわないのではないかなと、実は答弁させてもらってますので、もしそれはやっぱり入れたがほう良いということでしたら、またその方法について考えていきたいと、1つはそんなふうに基本的なことを思っています。

物事を見る角度で本当にいろいろ違いますから、今、こういうコロナ禍の中で、フェイスシールドとかをつけられてますが、かつて言っていた、脱プラスチック、廃プラの問題、どこに行ってしまったのかというようなことで、もう見方によって本当にいろんな考え方ができると、角度によっても違う考え方ができると、その中で大事にしなければならないものは何かということをもた見つけていければと思います。

今日は、どうぞ自由に御発言ください。あと順番、最初、私から意見言えみたいな、それはもう遠慮しましたので。皆さんの意見を最初に聞いて、挨拶だけということでございます。よろしく申し上げます。

○事務局 上田市長、ありがとうございました。

本日は、本年度の第1回目の総合教育会議でございますので、本日の出席者を紹介させていただきます。

上田市長でございます。教育委員会、谷垣教育長でございます。教育委員会教育長職務代理者の岩田委員でございます。教育委員会教育委員の牧浦委員でございます。教育委員会教育委員の菊岡委員でございます。教育委員会教育委員の大原委員でございます。

次に、事務局の紹介をさせていただきます。

総務部長の八木でございます。教育部長の奥村でございます。私、企画政策課長の辻井でございます。よろしく申し上げます。同じく企画政策課企画政策係長の渡辺でございます。

なお、さきに定例教育委員会が開催されておりましたので、教育委員会事務局職員の紹介は省略させていただきます。

続きまして、本日の配付資料のほうを確認させていただきます。

まず、本日の次第でございます。次に、教育大綱の策定や総合教育会議等の根拠法令を示した資料でございます。現在の本市の教育大綱でございます。そして、本市の令和2年度版の学校教育の基本方針でございます。続いて、第3期教育振興基本計画の概要版と、同じく第3期教育振興基本計画をまとめたパンフレットになってございます。お揃いでしょうか。

それでは、早速、次第4の意見交換に入らせていただきたいと思います。本大綱は本市の教育の目標や策定の根本的な方針、本市の教育が目指す基本的な方向性を示した計画であると同時に、未来を担う市民を育むための学校、家庭、地域の全ての人へのメッセージともなっております。これらを踏まえまして、今回は令和3年度以降に向けての大綱策定、改定ということで、第3期の教育振興基本計画などを踏まえながら、委員の皆様方の幅広い意見を取り入れていきたいと考えておりますので、対象期間であるとか、デザインとかも含めて、フリートークにて意見交換していただければと考えております。それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

○谷垣教育長 ご自由に発言いただいたら結構でございます。この機会に、どうですか。

基本、体裁的なことは、こういうもので考えているのですか。

○事務局 そうですね、5年前に皆さんいろいろお知恵、御意見いただいて出来上がった大綱ですので、この辺りをベースにいろいろ改定されたところとか、変更があるので

あれば、ちょっと修正を加えていただくなりということでは考えております。

○谷垣教育長 その体裁とか計画を含め、いろいろさっきも言ったのですが、例えばこのぐらいのシンプルなものでいいとするか、もう少しやっぱり書いたらどうかという考え方もあろうかと思っておりますので、この辺いかがですか。

我々（教育委員会）事務局の考えとしては、これは市長のほうで決定された教育大綱に沿って細かい具体的な内容については我々教育委員会が進める、考え方として。その1つは、学校教育に関してだけですけども、こういう形（教育基本方針）で具体化するというのが考え方かなと思っているのですが、細かいことまで市長に決めてもらうのではなく、これに基づきながら我々は進めていくと。ただ、これは学校教育だけなんで、教育大綱というのは生涯教育ももちろん入るわけです。

○岩田委員 これ（学校教育の基本方針）は毎年改定されるんですね。

○谷垣教育長 これは毎年、見直しはしております。大分最近は変えているみたいで。

○岩田委員 こちらを見てたら、国の振興基本計画に当たるのがこれになるかなと思うんです。体裁と中身だけ見たらね、そういうふうに感じるんですけど。でも、国が5年ごとにこれ、改定第3期だから、多分平成20年から振興計画やってるので、25年に改定して30年、5年ごとに多分見直ししてるんだと思うんですけど、その変化、私、不勉強で、どういう見直しがあって、どういう盛り込みがあってこうなったのか分からないんですけど、5年ごとで新しいものに見直すということであれば、大綱の中身というのも、それは該当する都市ですので、こういう会議という形で次の令和3年度からの見直しとなりますが、大綱なので、こういう振興計画とはまた違うので、なかなかこの理念とかいうのは5年でがらっと変わるということもおかしな話かなと思うのです。ですから基本的にはこの理念と基本方針というものに乗っかっていきながら進めていくのが良いのかなと。あるいは、その振り返りを市長さんにおっしゃっていただきながら、また考えさせていただけたらなとは思っています。

国のを見てたら、基本的にはがらっと変わってるような振興計画の中身が、そんな印象があるんです。

○菊岡委員 揺れてるんですかね。

○岩田委員 でも、教育の問題というのはそんな急に解決したり、急に変わるもんじゃないとは思っているので、多分その切り口を変えながら改定しているのかなと思っております。

○谷垣教育長 今の時期、学習指導要領が変わる、小学校は今年から、中学校は来年から。

この辺、ここでこのタイミングは大きいと思う。そこにたまたまですけど、これもある人は歴史的な出来事じゃないかと言っていますが、小学校の学習の変わる年にコロナが起こる。それがやっぱりそこから教育が変わっていくための何か契機だったのかどうかというぐらいの人がいて、そんなはずはないんだけど、これで1人1台タブレットということがもう一気に進みましたし、それを使ってこれから教育というのがどう変わっていくのか、それが国のこの計画の中にも随分Society5.0ということが出てきますけども、これからの、あるいは10年後の社会をつくるための力をどう養うかということ言ってるのがこの振興計画で。その辺の具体的なこと、大綱には書きませんが、こちらの基本方針の中にはそういうことをどう反映していくか、1人1台タブレットみたいな、その教育をどう変えていくのかと。個人的に今思っているのは、一人一人に応じた学習ができる、子どもの可能性を広げるために一人一人に必要なメニューが与えられるような教育になっていくのかなと。

それと、一方では学校という場では、個人が集まって、みんなで何かをつくり出す、みんなで何らかの結論を出す、まとめること、ハイブリッドとか言われますけれども、その両方を高められるような教育がもとめられています。基本方針ではそういうことを含めて作ってあげればいいのかなど。

ちょっといきなり大きい話になりましたけども、具体的なこと何かありますか。もっと芸術活動なんかをやるとか。

○大原委員 それを言いましたら、ちょっと。でも、この基本理念というのはすごくいいなと思いますので、やっぱりこれ、そのまま基本に使って、あと、これから今、教育長がおっしゃられたように、どんどん変わっていく教育改正をまたこちらのほうの教育基本方針のほうに加えてあげればいいのかと思います。すごくいい3つの理念が、いろんなことに通ずるものがあると思います。子ども一人一人の学びをとるところだって、子ども自体は僕は何になるというのがなかなか決められないことがあるんですが、それでもやっぱり好きなものを、自分の夢を持ってやっていくという、夢というのが最近の子どもたちにはないような気がしますので、夢がないというのはやっぱり少子化もあって、親があまりにも構い過ぎて、ここに自分で考える力、子どもの生きる力ということなんですけど、考える力が少し低下しているのではないかなと。言われたらできますけれども、自分から進んで、じゃあ今度はこれをしたらいいかなどというのが、今、周りの若い方たちを見渡してみると、何かそういうものがちょっと欠け

ているので、そういうところをもう少しもったこの理念で、やっぱり過保護にはしてしまいそうなんですけど、ぐっとそこは私たち大人が頑張ってる、というところはあるかなと思うので、この基本理念とっていいと思います。

あと、細かいことをまたこちらのほうの教育の基本方針の中で、今言われたタブレットのこととか、今の子どもはもうスマホとか、私たちよりばばっとするぐらいに、そういう力を持っているみたいなのでいいかなと思います。このタブレットというのは、要するに発信されているものを受け取るということですか。

○谷垣教育長 使い方として、いろんな使い方あります。学校でやる分には、例えばそこで自分で題材について調べる、それをみんな、例えばグループ活動の中でみんなを出し合って1つの意見をまとめて、それをディスプレイに投影してグループ活動の発表をすとか。それから、そのタブレットにドリルが入っていて、それは例えば算数だったら算数で、自分でそのドリルをやって、分からなかったら、例えば中学1年生とかで分からないところがあったら小学校4年生に戻ってやり直すとか、どんどんできる子だと3年生の内容をすとか、自分のペースで、自分に合った学習ができるようなドリルを準備したりと。

そういう形で、難しい言葉で言うと、個別最適だとかというのが最近よく使われるんですけども、その子どもに一番合った学習環境を提供する。先ほど私言いましたけど、個人的というか、個として学ぶということ、ただ一方でそれをみんなで話し合いとかをまとめて、社会に出たらそういう機会が必要ですよ、協働とかね。みんなで1つの結論を出す。そういう経験は学校でしておく、そういう両方が多分タブレットを使ってやれるようになると思うので。そうするとタブレットを家に持って帰らせないといけない。それはどうするかという問題もありますが。

今、2024年の次の教科書の改定するときには、もう教科書を全部タブレットに入れようかとデジタル教科書に。学校に重いランドセルに教科書をいっぱい入れて持ってくる、そういうのをタブレットすればというね。4年後ですね、そんな時代になるかも分かりません。急速に多分変わってくる。それがいいか悪いかは別ですよ。国が考えてるのは、そういうことです。

○菊岡委員 そしたら、塾のスーパー教師みたいなのが各科目でいらっしやいますよね。その教えるのが上手なスーパーティーチャーが中央からライブで授業をやって、みんなそれで見ると。教えるのが得意な人はそれで、そっちで子どもさんも学んで。実際、

現場ではやっぱり生身の人間、子どもの相手してるわけですから、そこで特化できるものを教えていく。全部科目を総なめするのもなかなか御負担でしょうから、先生方も。そしたら、そっちは任せといて、もっと違う現場の人間の教育に当たるようなことに特化できる、そこにもう重点的に注力できるということで、いい例になるかもしれませんね。

先ほどおっしゃったみたいに個別の指導ができる、昔の寺子屋みたいな小さい、その子に合った、その子のレベルに合った細かいケアができるというようなことができるので、新しい技術を使うことで非常に簡単にそういうすばらしいことができる、コストもかからない。そしたら学校、今のリモートの会社勤めも急にコロナのせいでなりましたから、じゃあタブレット1台与える、その費用と、学校を建築して、その維持費用とか、そんなものを含めると、そっちのほうが安いかもしれませんね。重たなく、全部そこへ、データを全部ダウンロードして入りますし、更新もできますし、新しく。非常に良くなるかもしれませんね。

○岩田委員 いや、やっぱり生徒の立場でしたら、信頼できる教員というのはすごく生徒たちも相談しやすい。だから、教科を教えるのがリモートで、人格形成がという、そういう分け方がなかなかできにくいと思うんです。だから全人格で教育で生徒がついてくるとか、そういう部分あるんで、なかなかちょっとイメージは湧きにくいというか。そんなものも10年も20年も前からありますし、そういうようなツールで学習して成果を上げることが今までも実はあるんです。だから、それを学校教育と今まではあんまり勉強は塾で、学校は半分遊びみたいな、そういうふうな、あるいは部活であるとかね、そういうすみ分けをしたのが、今度は塾に代わってそういうデジタルにというような、だんだん現場の教員の居場所がなくなる、そういうのはね。その中で、子どもがどう育っていくのかなという不安といいますかね、不安だけじゃない、いいほうもあるかもしれないですけど、そんな気もしなくはないですけど。

○谷垣教育長 いい先生というのは、やっぱりいるんです。それは子どものやっぱり意欲を高めてやると、そういう人間は絶対要る。だから、それを個に応じてやっぱり対応できるような、そうすると教科の専門性というのはあまり要らないのかなと、逆に。小学校なんか完全にそうですね。もう教科の専門性よりも子どもの気持ちを盛り上げてあげる。

中学校や、例えば高校は、教科の勉強というのがどれだけ要るのか、そんなすぐで

はないけども、10年、20年後に出てくる可能性はあると。その時に気持ちをどう、思うに、学ぶことが楽しいとか、もっと知りたいとか、やりたいというのを盛り上げる、そういう人がいないと自分では……。

○岩田委員 乗せるのが上手な先生っていますからね。

今年ね、コロナで学校現場の先生に今年大変でしょうって、特に受験生抱えてる学年の先生に聞くと、いや、そうでもないんですと。自分でやるような癖がつき始めたというか、結構みんな、真面目に進路も考えて、自分でどうしたらいいかって結構考えているから、生徒の学習指導については今までより楽ですと。ただ、入試とかがどうなるか不透明だから、その分の不安はあるけど、生徒は自分で学習する意欲を例年よりは持ってますということで、そんな話をしましたね。

○菊岡委員 時代が変わって、ツールとか、いろいろ便利なものとか、どんどん増えてくるんですけど、やはりこの理念にあります、誇りと自信を持つって、ここは一番肝なのかなあと思いますね。

○岩田委員 私、これを見ててね、夢は未来のことですね。誇りと自信って、だから過去から現在まで、ふるさと郡山に住んでの誇りや自信、それって一体具体的にはどういうものが考えられるかなというふうに思って、その誇りと自信というのが郡山独自の何か、そういうものが共有できるんだったら、それぞれが郡山という町に誇りも自信も持てる。それって何かなというのを、これを見ながらずっと考えています。

その辺を教育の中でも掘り下げるといふか、言葉だけじゃなくて、言葉の裏にある何に対する誇りなのか、何に対する自信なのかというあたりを教育でつけていけると、郡山という土地に対する愛着といふか、実際、郡山から出ていっている人も多いんですよ。Uターンしてこられる方いるのかどうか分からないですけど、この誇りと自信というものを教育と結びつけて考えられたらいいかなと。大綱に載せるとか、そういう話とは別にですね、この理念を見ながら、すごくいい理念なので、誇りと自信というのを教育の中で掘り起こせるような、そういう教育ができればいいかなと思います。

○菊岡委員 例えば郡山に特化されるのであれば、郡山のおらが村の偉人伝とか何とか、ここで昔、こんなすばらしい事業があったとか、地元に関してなら親しみも湧くでしょうし、郡山版でそういったものがついていけばいいかと思えますし、最近、ユーチューブとか、本も含めてある程度、大人になってから、自虐史観で育ってきた世代ですので、改めて日本史とか世界史とかも含めて見直してきますと、いかに戦後、GH

Q下の政策で真逆のことを教えられて、日本は駄目な国、悪いやつだとかいうのばかり教えられて、それを見直してきますと、いや、実はすごく日本、いい国だったんだ、こんなすばらしいことしてたとかって事例がいろいろ出てきて。江戸時代に海外から来られた外国人がいろいろ記しておられるのが残っておりますが、日本人が考えるよりもすごく国民性がよくて、真面目で、盗みなんかもせず。すばらしい、こんな日本人というのを海外の方は江戸時代に記しておられる。日本人が今思っているよりも自分たちの歴史、過去、非常にいいものがあったはずなのに、駄目な国って塗り固められている。やっぱり自分の国に自信と誇りを持てる、地元で自信を持つ、誇りを持つ、そこがやっぱり人間形成にとって非常に大切というか、世界に出たらおらが村はって自慢ばかり、海外は特に自己主張が強いですから、国際化というのは実はそこがベースになってあるということですので、やっぱりそんなところ、大きい話もそうだし、地元の郡山で何か具体的な事例で狭い範囲内で、地元の子どもたちが自分たちの生まれ育ったこの地に自信が持てたら、子どもたちがいい大人になっていくのかなというようなことを感じております。

○上田市長 よろしいですか。最近ちょっと読んだ本で、青山繁晴さん、御存知かもしれませんが、君の大逆転というのを読んで、ちょっとまた目からうろこだったんだけど、ハワイの真珠湾に日本人は行くなと言われて行ったらいじめられると言われて続けてきたわけ。それが今の自虐という。ところが青山さんが今、いろんな人をそこに連れて行って、そこに博物館があるのね。そこには日本のゼロ戦とか、ああいうものを本当に褒めてるわけです。ものすごく優秀だったと。何か展示場の中、日本の兵士がうごきながら攻撃してくるところが再現してあるそうなんですけれども、その趣旨は何かといたら、アメリカははっきり認めてるわけです。そこでは船同士の戦いだと思ってたのに、日本は初めて戦闘機というものを持ち出して攻撃した。すばらしい革命を起こしたと。アメリカは完敗しましたと。完敗したから、そのことはちゃんと歴史に残す代わりにちゃんと勉強して、半年後にはミッドウェーでもう逆転するわけです。学んだからこそ、今度は日本の制空権をもう完全に奪い去って、ミッドウェーは圧勝で、そこからもう日本は負けていくんです。そのことをちゃんと認めた、すごい国だということをその本の中で書いていて、戦後はそんなことを全然我々は知らないで、真珠湾にも行かないでと。真珠湾の人たちは決してそんな恨みつらみでこの話をしてないですよと、日本人のことを冷静に見てますよという話なんですよ。

だから、そういうことを、戦後はやっぱり本当に片寄った物の見方をしているのかなということをおもいますね、今の自虐史観みたいな話で言うかね。

もっと言うと、その中に書いてある、こんな事実は知らなかったけど、ハワイというのは結構親日家が多くて、戦前、明治から、日本と連合国家をつくろうという提案があったらしいんです、カメハメハ大王から。もしそれやろうという話になったら、あんなところに戦争起こらない。それぐらいのものすごい親日的な地域であって、それは日本人に対するある種、今おっしゃった、すばらしい民族である、アメリカの民族とは違うという、そういうハワイの人たちの思いがあったんですかね。そんなことまで今になって分かってきてるということです。

○谷垣教育長 日本、地元の良いところをね、それを具体的にどうするのというのを持ってないと。今実際あるのは、教科書も作ってるしね、小学校3年生用ですね。郡山のテキストを作っていますけれど、いろんな仕掛けをしていかないといけないでしょうね。今度観光協会が作ってくださったノート、とてもいいと思いますよ。やっぱり郡山のことを、いろんな行事があるけども、そういったもの。あとは郡山の歴史みたいなもの、ホームページに今、出ていない地域に密着したもので。

だから、そうそう、図書館、電子図書館を作るのなら、そういう郡山の何か魅力とかみたいなものをまとめたような電子図書を作ったらいいですね。

○上田市長 今、今年の状況で遅れてしまっているけど、郡山の歴史を再改定するというプロジェクトを進めているんです。そこへさっきの偉人伝みたいなものを入れるべきだと思うのですが、この間、ある人の話で、日本ペイントという会社、皆さん御存じですか。日本ペイントの会社を創始したのは郡山の人。郡山藩主の茂木重次郎という人が江戸へ行って、遊学ですね、当時の。そのときにしゅんたつて弟と一緒に行ったのですが、2人が向こうで目をつけたのは、当時、歌舞伎役者のおしろい、鉛が入ってるから、あれを見てこれに代わるものが何かできないかというところから研究をスタートして、日本で初めて国産のペンキをつくった。それが今の日本ペイント。何年か前にその社長にちょっと交流させてという手紙を書きました。そしたらオーナー社長ではないんですね。違うから、全くナシのつぶてというか、何を言ってるんだ、みたいな。ただ、大阪のペイントの会社にはちゃんと重次郎の写真が載ってるんですね。でも、会社はそれに対して誇りを持ってわけでもなんでもない。ただ、その日本ペイントは外資にもう取られたでしょう、中国かどっかにね。何か買収されましたね。

あのときに、ああ寂しいなと思ったの。そんなことを積み重ねていくと、郡山には結構いろんな人がいますから。お寺も、100か寺ある。

○岩田委員 城下町政策の1つですからね。

○菊岡委員 さっきは江戸時代のこと言いましたけど、実はもう縄文時代、僕たちが教えられたのは、何か毛皮を着て、うほうほうほって槍を持ってやってるようなイメージですけど、実は違って、すごく長い間、平和な世の中が縄文時代、ずっと延々続いて、実は文字も持っていたんだと。発掘作業して出てきたんでしたら、世界最古の土器とか石器が実は日本にあると。稲作も実は外国から来たんじゃないで、日本が先に稲作をしていて、出てきますから、分析できるので。それがどうやらDNA鑑定したら外国へ輸出してるんですね、日本から。全部何でもかんでも日本は後進国で、野蛮な国で、外国から入ってきてというようなふうに教えられてましたけど、実はひょっとしたら世界最古かもしれないですね、日本は。文字もちゃんと持っていて、そこから外国へ渡って漢字ができて逆輸入したというような流れになるそうなんですよ。そんなことを含めて、日本人の誇りを、威張り散らすとかそういうふうな過剰なものじゃないんですけど、日本はいい国だよというようなベーシックなところから子どもたちに教えられたら。

タブレットでググったらすぐに何でもデータは出てくるので、もう暗記する必要がなくなっただけで、考える力とか、なぜこの人物がいて、どういう動きをして、こんな事変とかが起こったのかとか、日本国内だけじゃなくて世界と全部総合的なストーリーを、ケーススタディの学びというようなもので、どんどん考えさせるような授業を重点的にしていけば。数をこなさなくても、考える力さえあればあとは全部知識はすぐに手に入る時代になりましたから、いい世の中になるのかななんて思ってるんですが。

○上田市長 縄文って1万年ですね。1万年って簡単に言うけど、今、我々は何年生きてるのか。

○菊岡委員 1万8,000年らしいですよ。

○上田市長 1万8,000か。いやいや、その間に人間、何もせずと過ごしたわけでは絶対ないはずですよ。何か工夫して、何か発見して。

○菊岡委員 キリストから2000年ですからね。

○大原委員 コミュニティーってすごく大事なことで、それこそもうタブレットになったら友達と喋らなくなるとか、ちょっとそういうことも懸念されるので。やっぱり昔って

周りの人たちに育ててもらったってあるじゃないですか、隣のおばちゃんに悪いことしたら怒られる、すごい怖いおじちゃんがいたとかあるじゃない。今は言ったら反対に訴えられて、怖い時代になりましたけど、それでもやっぱりコミュニティーというのは絶対必要だから、それはやっぱり私たち大人が子どもたちに、誇りじゃないですけど、そこに関わってくるのはやっぱり人と人とが対峙するというのがすごく大事であるということを教えていってあげたいなと思うんです。何でもかんでも駄目ではなくて、やっぱりそれが協力し合っということになりまますし、私は音楽で言えば、オーケストラなんて個々の楽器じゃないですか。個々の楽器はいろんな音色があるんですけど、やはりそこで協力し合っ初めて1つの音楽というか、うねりができるので、そういう意味ではやっぱり子どもたちもお父さん、お母さん、他人ではなくて、やはり色々な方とのコミュニティーを取るといいますかね、もちろんおじいちゃん、おばあちゃん、知らないおじいちゃん、おばあちゃんもいるけど、優しい言葉をかけてあげられるとか、そういう子どもたちをこれからどんどん育てていきたいなと思っていて、そこに全てやっぱり誇りとか自信とか関わってくるんじゃないかなと思いますね。それをどうしたらいいのかなと思って、ちょっと。

○谷垣教育長 方法ですよな。

○大原委員 そうなんです。

○谷垣教育長 基本方針の最初に出てくる、子どもをみんなで育む、そういうことなんだと思うんだけどね、それはすごく大事なことで。

○大原委員 今の世の中、やっぱり怖い人もいっぱいいて、どういうふうなやり方でやったらいいのかなみたいな。 経験ですよな、やっぱり。

○谷垣教育長 OECDなんかの調査をしたら、大概日本の子どもは自信があるかって聞くと一番低いんですよ。自分が社会の中で役立つことができるかって。ただ、それは低かってよく批判されるんだけど、日本の文化としては謙虚さというのがあって。だから、あんまり子どもも言わない、自分はできますとか、やりますとか。大人もそういうところあると思うんですけど、あんまり自信持って出ていく人は煙たがられてね。どっちかという、謙虚であったり低姿勢のほうが好まれる文化的なものがあるから難しいですね。だから誇りとか自信というのは、何か威張ることでもないよと。何か違う意味でね、でも、何か大事にしているものだよと、そういうことを教えてあげたいなと思うんですね。

- 牧浦委員 日本の子どもたちは、相手に何かを伝えるときに根拠を示して説明することが非常に下手で、外国の子たちは小さい頃からみんなと話し合うということをやっているから、かなり日本とは差がつくのでしょうね。
- 谷垣教育長 それを今ね、今おっしゃったような理由をちゃんと言って話をするような癖をつけようというのを学校教育はやろうとしているんです。アクティブラーニングというのはそうなんです。ただ、家庭でも、例えば家に帰って、「水」とかって単語で言うわけですね。「その水でどうしたの」って聞いてやればいいんだけど、「水」と言ったら、水を出してあげるでしょう、お母さん。水だけでは分からないのに分かってしまうから、日本人は。子どものときに言葉遣いをしていますから、常に。
- 上田市長 「水」、「風呂」、「飯」といってね。
- 谷垣教育長 それはもう子どもに限らずですね。単語を言うだけで通じてしまうって、何かそこで親が「水がどうしたの」って聞いてやれば、「水が飲みたい」ってちゃんと言うんですけどね。
- 大原委員 ちょっと思い出しましたが、外国の大学とか、音楽に関していうと、ディスカッションの時間ってあるんですよ。1つの、モーツァルトであればモーツァルトに関してのことをみんなで話し合うというのがあって、その中で自分の知っていることを言い、また知らないことを学びというのがあって、だから子どもたちもそういう何か、日本でいうと話し合いになるんかもしれないんですけど、何か1つの機会です。そういうディスカッションをさせるというのを小さいときに、小学校ぐらいから持たせてやっていたら、そういう力がついていくのではないかなと思うんですけどね。
- 谷垣教育長 それを日本の国でもどんどん取り入れようとして、個別の場、それからみんなで話し合いの場、それが両方要るんですね。ただ、何も言えない子が話し合いしたって駄目なんです、知識もない子がね。自分の力をつけて、それをまたみんなの中でお互いに闘わせるというのはちょっと大げさだけど、言えないと、できないと、その子らにとってはその時間は苦痛にしかならない。
- 大原委員 本当はそこで、じゃあちょっとどんなんかしらとって思ってくれるといいんですけどね。
- 谷垣教育長 そのときにタブレットとかあってね、調べて準備をしていって、そういう話し合いの場を作るとか、そんな授業をこれから。
- 大原委員 その学力がつくと、言っていたような誇りと自信がつくんでしょうね。

○谷垣教育長 そうですね。でも、学力というのは、またいろんな定義があって難しいですよね。テストの点数だけではないので。

○大原委員 ああ、そうですね。

○谷垣教育長 おっしゃったように、ちゃんと根拠をがあってものが言えるというのも大事です。それも当然、学力なんだろうし。

○大原委員 知識がないことにはしゃべれない。

○谷垣教育長 言葉を知らなかったらね。

○大原委員 ああ、そうですね。

○谷垣教育長 それはもう自分でやる、というふうな関係になればいいんですけどね。

ちょっと話が半分広がり過ぎたので。基本的にお聞きすると、この基本理念の言葉というのは、やっぱりこのままでいいかなというところなんですかね、委員さんも。あとは、それを具体的な手だてとしてどうしていくのかということを考えるのは、我々教育委員会事務局の仕事なのかなと思ってますけども。

下の基本方針もこれでいいですか。また再検討されると思いますけども。

○牧浦委員 これは1番目のところは、これは子どもに対して、次は生涯に対して、あとは地域に対して。そんな感じでおっしゃいましたか。

○谷垣教育長 子どもの生きる力、みんなで育む。地域教育。

あんまり固く考えすぎずに、でもね、これは何を言っているんだということが分かるようにしていくのも大事です。

学校教育というのは、3つ目かな。ただ、もちろんまちづくりでみんな揃えているから。この基本方針に関して何かもし御意見あれば、例えばこんな要素も入れたらどうか、別に3つである必要はないと思うので。もう一つ、二つ増やしても構わないし。基本理念はこれでいいんじゃないかという1つの結論ですよ。基本方針のほうはどうですかね。

○牧浦委員 子どもだけじゃなくて、これ、みんなが育たないといけないですよ。みんなが育つ。

○谷垣教育長 ……どんなことをイメージするかですよ……。

○牧浦委員 うまくまとまっていますね。

○谷垣教育長 生きる力という言葉が大事だと思いますね、生きる力を育てる。そのためにどんなことができるか。

生涯学習的な部分でどうですか。どうしても教育というと学校教育がメインになりますけど、当然、教育委員会の中には生涯学習課があるように、生涯教育といいますかね、生涯が学びという点で、2つ目は主にそれを言ってるのかなと思いますけど。

○大原委員　すごくいいんです、生涯を通じて学ぶ喜びを、誰もが実感できるというところが、もうちょっと何かいい言い方がないかなとちょっと思ったりしてます。本当に学ぶ、私も今、ちょっと学んできてる、これからまた勉強と思ってるので、その学ぶ喜びというのはすごく、誰もが実感できるというのをもっと何かないかな、とふっと思ったんですけど。確かにこの言葉でいいんですけど、何かちょっと。自分が年齢を重ねたので、いや、本当に学ぶというのはいいなという実感なんですけどね。

○谷垣教育長　豊かさ、生活。人生がそれで豊かになるような、そんな。

○大原委員　何かそんないい言葉をちょっと当てはめたいかなという気がしましたが、思い浮かびません。

○谷垣教育長　生涯学習に対してどんな言葉がいいとかございますか。

○小林生涯学習課長　難しいですね。前段と後ろとあるんですけど、真ん中だけ違う言葉というのなかなか難しい気も。前と後ろを見ると、これが一番収まりがいいのかなと。

○大原委員　まちづくり入れてもいいのですが、その上の部分がもうちょっと何か素敵なのか、これでも素敵なのですが、さらにもう一つないかなと。分からないですが、だからといって当てはまる言葉が私、思い浮かばない。

○谷垣教育長　この文言については、また市長、宿題ということで。

基本的にはこれでいいということで、我々も考えますので。

他、何かございませんか。体裁とか。市長のほうからパブリックコメントのことも出ましたけども、何かその点についてでも。

○大原委員　私も市長と一緒に、色々聞くと収拾がつかなくなると思うので、しないほうがいいのではないかと思います。

○谷垣教育長　何か他に御意見ございませんか。（教育大綱は）総合教育会議で決めること、総合教育会議の構成員は市長と教育委員、と明確になってるわけだからね。手続きとして問題はないですね。

○事務局　はい。

○谷垣教育長　あとビジュアル、写真ですね。教育委員会で作っている学校基本方針も

できるだけ写真でするようにというふうになってきているんだけど、言葉よりもこんなふうな子どもにしたいんだとか、こんな活動が大事であるとか、そういういい写真をたくさん挙げてもらったら、見る方々はよく分かるんじゃないかと思います。

始めにも言いましたけど、大綱についてはこういう形で大きな枠を作って、それを具体的に進めていくのは教育委員会で、大綱ではある程度方向はこちらですという説明ができたらいかなど。細かい計画とか、そういうことについてはもう教育委員会でさせてもらうということで。

○大原委員 この写真、全部、何々って書いてあるのですが最後のページのこれは書いてないですね。

○谷垣教育長 ここは具体的な何かというよりも、郡山といえば、ということで金魚すくいの写真になっているのでしょうか。

○上田市長 「すくってごらん」という漫画が、映画が公開されますね、全国公開。ああいうのって何か1つあれば子どもたちが大きくなって、すごい、結構みんな知ってくれてるんですよ。あの、うちは金魚の町やねんということで自慢ができるんですよ。どこかの市の市長さんがおっしゃってましたけどね、うちは何もない、郡山が羨ましい、金魚があるからいいじゃないかと。松原市です。松原ってインターチェンジしかないと悔しがってられました。

それから、関東のほうにも大和市があってね、同じ大和がつくから仲間になろうと言われて。何でそんなことをおっしゃったのかというと、大和市って移住の人が圧倒的に多いんです。だから町に誇りとなるものがないというか、共通の何かがない。それ、金魚すくいをしたらという、そういう提案があったので、覚えてくれていて、結果的には今できてないですが、そういうことで悩んでる町ってあるんです。東京にある大和市というと僕たちもイメージがないし、大和というと奈良のことだと思うじゃないですか。だから、誇りとなるもの、つまり何かね、大和ったらこれだというふうに結びつくものがね。そんな市、結構多いんですよ。

○岩田委員 金魚すくいしかないと思ってしまいますからね。

○上田市長 うん、そうそう。決してそんなことはないんだけど。

○岩田委員 いつも映像で映ると、また「こちくや」とか、あ、また、となる。菊屋さんも時々映りますけどね。もっと違うところも映してあげてよってなります。いつも同じ映像なので。

○上田市長 この間、91歳と88歳の方にお会いして。その1人、伊がらしさんというのはね、東京に住んでおられますが、小さい頃、家が講談師が集まる場所だったらしく、アキマエンは郡山にいたんだなと言い出されて、そうです、家、まだ残ってますよなんて言っていて、いたく感激をされていました。だから外から言われて分かるね。その講談の世界では有名ですよって言って、いたく感動していただきました。そんなこともあるんですね。

○谷垣教育長 どこかに行かなくても郡山にゆかりのある人を見られる一覧というか、何かそんなものができたらいいですよ。そういうのはどこかな、図書館かな。

○上田市長 どうなんですかね、コーナー作らなあかんかな。

○谷垣教育長 そういう何か、本のコーナーか、さっき言ったように、電子的な資料でそういうのを子どもたちが見られるように。

○菊岡委員 かるたでもいいんですよ。地元かるた。

○谷垣教育長 そういうかるたを作ってるところがありますよね。

○上田市長 ああ、あるある。大和郡山市かるたというのが。

○大原委員 ああ、そうなんですね。

○上田市長 それはハンセン病の療養所へ持っていこうということで、そのことをちょっと「つながり」の原稿で今回書いたんです。やっぱり郡山から療養所に行った人もいますよね。ハンセン病の患者さんを救済しようとした1人が叡尊上人、郡山の出身です。ハンセン病というのは古事記にも書いてあるんですね。だから、もうずっと悩んできた。感染力も何もない、もう完治する病気なんです。それなのに、まだ差別が残っていて、療養所の人たちも高齢化してるしね、法律が廃止されましたが、まだ二十数年ですよ。それまで歴然とした隔離方法あったんですね。人間って変わらない、コロナの今の差別もですけどね。ある人は中学校に行ったら突然呼び出されてね、何か分からないけど家に帰れと言われて、帰ったらそこにお医者さんがいて、もうそのまま荷物まとめて電車に乗って岡山の療養所へ入れられる。その人の戸籍はその日に抜かれていますからね。無戸籍ですよ。もう完全な隔離なんです。その人が、僕は客車に乗せてもうたからまだよかったと。人によってはもう貨車に乗せられて運ばれて行くらしいので。完全に世の中から抹消されたんです。そういうこともあったんです。

○谷垣教育長 この大綱に関わっては何かよろしいですか。もう言いたいことは全部言っていたいただきましたか。

大綱とは別に、この機会なので何か市のほうに、市長さんに言っておきたいとか、伝えておきたいとかございませんか。よろしいですか。

○事務局 あと、次回の大綱の期間を5年間とするか、それ以外の年数にするかというのも決めておいていただければ。現行が28年度から32年度の5年間で、翌年度以降も同じ5年間とするのか、また別の期間とするのかということもお決めいただければありがたいですが。

○谷垣教育長 何か決まりがあるわけではないのですか。

○事務局 特にないです。

○谷垣教育長 前回つくったときに5年にしようかということでしたということですね。

○事務局 はい、そうですね。国の基本計画に合わせているということです。

少しずれていますが、その5年というスパンで合わせております。

○谷垣教育長 どうですか。何か切りとしては、5年、もう5年いって10年とかにすると何かきれいな感じはするけどね。

○事務局 そうですね。市の総合計画も、また後期基本計画が来年度から5年間になりますので、全て市の計画がちょうど年数が合ってきてるという意味では5年間もいいかと事務局のほうでは考えています。

○谷垣教育長 よろしいですか。特に異論はないようです。

○事務局 ありがとうございます。

委員の皆様、いろいろ貴重な御意見をいただきましてありがとうございます。それでは、上田市長に総括をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○上田市長 いや、冒頭に理念を大切に、とおっしゃっていただいたので、そのことに象徴される結論に導いていただいてありがたいなど。

夢と誇りと自信ってね、よく使われる言葉ですけど、これで思い出すのは学生時代の長野県の友達が宴会になると最後に必ず歌うんです。「信濃の国は」って長野県の歌があるんです。奈良県は歌はないのかと言われて……。すごい印象的で、みんな歌うんですって。これはものすごく誇りを持っているなと感じたことがあります。

それから、もう辞められたんですかね、東大の教授でゴリラの研究をしてる人がおっしゃってたそうですが、ゴリラも人間もスキンシップがないと集団はできないんだそうですね。スキンシップがないと集団というのはできない。リーダーも育たない。だから、そういう意味では今のリモートとかは、そのことを少し心配するというか、危

惧する面があるんですね。テレワークとかが当たり前になるというけれども、テレビの宣伝でありましたね、「通勤、頑張るんですか」といった何かなかったですか。

頑張らなくてもいいみたいな。本当にそれがいいのかどうかとか、ランドセル……そら、なかったらいいけど、あれで鍛えられてる筋肉もあるだろうなと思ったり。

和式のトイレは足腰を鍛えるのにいいとか。要するに便利さの陰で失うものというのは、これは何かということは常に問うていかないといけないなど。便利さだけが全てではないなど、今、それが生きる力ということと言われるのかなと思ってますけど。

それからもう一つ、今「脱ハンコ」ということで盛んに言ってます。うちも市役所として今、なくてもいけるものをピックアップして精査しようということ呼びかけてやってるところなんですけれども、婚姻届や離婚届なんて、もうなしでいこうと言ってるけど、そういう議論をするときに、婚姻届とか離婚届を出す意味というかな、そういう書類を出す意味が何も議論されてないから、便利かどうか、オンラインでいけるかどうかだけの議論で本当にいいのかなと思います。古い人間なのかな、やっぱりけじめというか、何か人間としての、言わんとするところを分かっていただけでしょうか。というのは、今のこういう形式でも年間数件あるんですよ、虚偽の報告、虚偽の届。そういうのが現実なので、オンライン、そんなことができるかどうか分からないですが、そういう軽いので良いのかどうか。またオンラインが軽いというと、おまえら古いつて言われるかもしれないけど。何かそんなことの議論が全然まだないということをちょっと心配してるんです。

学ぶことの楽しさとおっしゃったけど、去年亡くなったのかな、ヨダさんといって、筒井の方で天理の夜間中学に通っておられた、もう70幾つで、80手前で亡くなった、この人も事情があって小学校も中学校も全然行ってなくて、もう還暦近くまで字が読めなかった。字が読めないことの苦しさというのは、本当にいろんなことを教えてもらった。役所に来たときにどんな苦しいかって分かるかって、もう当たり前のように氏名と住所を書けと。書けない。町行ったら看板が1つも読めない。その苦しみが分かるって。だから、もう字を夜間中学で勉強されますが、勉強の取り組み方がほかの人と違うんですね。嬉しくてしょうがない。そういうことを子どもに本当に伝えたいですよ。そんなことができてるかどうか、学校でね。単に義務としてやってるだけじゃなくて、楽しいことなんやということをどう伝えるかというのが重要ですよ。楽しいと思ったら、人間ほっといたってするんです。その辺のことを、音楽も一緒だと

思います。そういうことを伝えられるように、本当にそれが生きる力につながっていくようなことになればいいなと思います。

また方針についてはいろいろと教育長とも話をさせてもらいながら、より良いものになるように、また皆さん、メモで渡していただいたら、また参考にさせていただきたいと。しっかりと考えていきたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いします。

○事務局 市長、ありがとうございました。

それでは、本日、皆様方からいただきました御意見を踏まえまして、次回、第2回目の総合教育会議で、新たな教育大綱ということで、デザインも事務局のほうで何案か出させていただいて提示させていただけたらと考えております。次回の会議は、年明け1月ぐらいに開催させていただけたらと考えておりますので、よろしくお願いします。

本日はどうもありがとうございました。